

特別支援教育研究論文集

—令和6年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

知的障害教育における指導と評価の一体化のための
単元・授業づくりに関する実践的研究
—各教科等を合わせた指導（生活単元学習）に焦点を当てて—

静岡県立浜北特別支援学校

教諭 高橋 皐

令和7年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

静岡県内の特別支援学校は、各教科等を合わせた指導（以下、合わせた指導とする）を取り入れた教育課程を編成している。学習指導要領には、児童生徒の学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的であることから合わせた指導が行われてきたこと、児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等に即して指導すること、各教科等の目標を達成していくために、育成を目指す資質・能力を明確にすることが記されている。中央教育審議会（2016）では、合わせた指導を行う場合、各教科等の目標・内容を関連付けた指導及び学習評価の在り方が曖昧になりやすいこと、各教科等の目標が十分に意識されずに指導や評価が行われていることがあることが指摘されている。私は、生活単元学習は児童の実態と生活上の課題を把握し、育てたい力を設定して授業づくりができるところが良さである一方で、その単元・授業づくりにおいて、教師の指導経験や知識、アイデアが必要であり、適切な実態把握と課題設定に難しさを感じてきた。本研究では、教育課程と合わせた指導の単元・授業づくりに関する現状と課題を整理し、課題を踏まえた実践研究を通して、知的障害教育における指導と評価の一体化のための、合わせた指導の単元・授業づくりについて考察する。

まず、静岡県の教育課程と合わせた指導の現状に関する研究を通して、合わせた指導の単元・授業づくりにおける課題を整理した。子どもの実態と生活とのつながりを大切に、合わせた指導が考えられており、実態把握を基に単元・授業づくりがされていた。しかし、先生によって、実態把握の捉え方は様々であること、合わせた指導における各教科等の意識と学習指導要領の活用度に差があることが分かった。単元・授業づくりにおいて、目標、単元計画、学習活動の設定に難しさを感じている先生が多くいることも分かった。合わせた指導の単元・授業づくりでは、とりわけ、適切に必要な実態把握と、それらを学年で共通理解し、指導のねらいを明確にしていくことが大切である。そして、実態把握を基に学習指導要領から目標と活動内容を考え、子どもたちが何を学ぶのか、教科等の意識と根拠をもって、合わせた指導に取り組んでいく必要があると考えられる。これらの結果を基に、実践研究に取り組んだ。児童の実態把握と目標や学習活動の設定が適切にできるよう、学年全員で話し合いや振り返りを行い、全員でPDCAサイクルに沿った単元・授業づくりを行った。そして、学習指導要領に基づいて目標や学習活動を設定した。学年の先生に2回アンケートを行い、合わせた指導と単元・授業づくりに関する考え方の変化から実践研究を振り返った。その結果、全員で話し合いをしたことで、より適切に実態把握をしたり、きちんと共通理解をして、単元・授業づくりをしたりすることができ、根拠のある合わせた指導に取り組むことができたと考えられる。学習指導要領に基づいて単元・授業づくりをすることで、取扱う教科が明確になり、子どもたちが何を学ぶのかが明示され、目標や学習活動などが考えやすくなることが明らかになった。また本実践を通して提案した、話し合いのモデルや単元カードの様式モデルの一定の妥当性が示唆された。一方で、話し合いや単元・授業づくりを円滑に進めるためには、教員一人ひとりの実態把握、単元・授業づくり、合わせた指導に対する知識と経験が必要である。学年の教員集団に合った単元・授業づくりをしていくことと、先生方がどういった研修を積んでいく必要があるのか校内研修を整えていくことが、今後の課題として挙げられる。

キーワード：生活単元学習、単元・授業づくり、実態把握、学習指導要領、話し合い